

平成26年度第1回鎌ヶ谷市図書館協議会会議録

1, 開催日時：平成26年6月27日（金）午後2時～3時

2, 開催場所：鎌ヶ谷市立図書館3階保育室

3, 出席者

(1) 委員： 太田直美委員 浜口貞美委員 伊藤眞由美委員
高野彰久委員 渡辺みどり委員 滝本はる恵委員
小茂田茂委員 樋口美佐子委員 山口勝巳委員

(2) 事務局： 石井生涯学習推進課長 石原主幹
三宅図書館長 米井主査 小林

(3) 傍聴人： なし

4, 議題

○図書館利用者アンケートの調査結果について

5, 審議内容

委員長： 議題の「図書館利用者アンケートの調査結果」について事務局より説明願います。

事務局： このアンケートは、平成25年4月から長期継続契約による5年間の業務委託が開始して1年を経過したところで、現状のサービスの認知度や評価などを調査し、今後のサービスの改善に役立てるために実施したものである。

本館及び分館5館に来館した方を対象に、平成26年3月11日から同月30日の3週間実施し、667枚配布し、635枚を回収した。回収率は、95.2%であった。・・・以下、配付資料に基づき説明・・・

委員長： ご意見、ご質問は、ございますか。

委員： アンケートの利用頻度に関する質問で、曜日毎の集計は出ているのか。例えば利用数が多いのは日曜日とか。

事務局： アンケートでは、そこまでの細かい調査は行っていない。

委員： Q11の「読み聞かせ等の図書館活動（ボランティア）に参加してみたいですか？」との質問に対し、「はい」が10%で「よく分からない」が31%となり、その回答の割合は合わせて41%となる。そこで、「はい」と答えた10%を少しポジティブに捉え返していく

ことが将来的に大事だと思う。そのあたり、さらに一步踏み出して何か考えられるところはあるのか。

事務局： 今年度から東部分館を皮切りにボランティアのおはなし会プロジェクトを進める予定である。

これとは別に、各学校で読み聞かせをされているお母さんを対象として、読み聞かせに関する講座をやってほしいというご希望があったので、現在、各公民館と協力してボランティアのおはなし会の研修を行っている。こうした研修を積み重ねながら、ボランティア活動に参加できる方を少しずつ増やして行ければと考えている。

委員： 図書館を利用される方の居住地の分析がでていますが、本館や分館から遠い地区では、利用者が少ない。

そこで、当協議会でも検討している分館の充実や時間延長のことも含めて、公民館との連携というものをもう少し具体的に策を考える方向性が大事ではないかと思うが、如何か。

委員長： 「分館の充実」「時間延長」「公民館との連携の具体化」の3点について、先ず、時間延長については、現在、どのようになっているのか。

事務局： 本館は、平日8時まで開館しているが、日曜、祝日は5時までとなる。そこで、開館時間を平日と同じようにとのご意見があるが、平日において利用者が多いのは、6時から6時半くらいまでで、8時までいらっしゃる利用者は、かなり少なくなっているのが現状である。

一方、公民館は、現在、5時まで開館しているが、分館の時間延長については、公民館の利用状況に応じた形となることから、図書館の開館時間が、「今日は開いている」「明日は開いていない」「急に開きました」という状況での対応となって無理があるので、分館の開館時間は、現状のとおりと考えている。

委員長： それでは、「公民館との連携の具体化」ということでは、どのようになっているのか。

事務局： 今回の読み聞かせの講座は、学校教育課、図書館、公民館が連携を図り、公民館からは、講師謝礼を出していただくという形で連携させていただいている。

この公民館との連携については、同じ生涯学習推進課の組織の中ですので、今後、もう少しいろいろな形で連携していきたいと考えている。

委員長： それでは、今すぐ実現可能ということではなくても、何かアイデ

アがあればご意見をお願いします。

委員： 先程の事務局の説明の中で、おはなし会プロジェクトという言葉
を初めて聞いて感動している。今年度、学校教育課、公民館、図書館
が共催してボランティアの養成講座を地区毎に開催しているので
私も何回か参加させていただいたが、学校司書の先生がたくさん出
ておられて学校としての取り組みが、アドバンス研修会とは全然違
う。この取り組みは、今年度だけで終わらせないで、継続していただ
きたい。それと、学校ボランティア、おはなし会ボランティアの間で
何か連携できないか、お互いに情報交換がなされたらいいなと思
う。

委員長： 学校の現状をお話すると、学校教育課で予算を確保していただ
いて図書司書が全校配置されており、これは素晴らしい取り組みで
ある。今の講座の内容は？

事務局： 従来から図書館では、おはなし会の講座を行っているが、初めて
の方を対象にしたもの、ある程度実践を積んでこられた方のための
もの、わらべうたの講座それらをワンセットにして毎年行っている。
今回は、ある学校から講師を派遣してくれないかというお話があっ
たが、1校だけというわけにもいかず、9校全部に派遣するほどの
体制も整わないことから、最寄りの公民館に足を運んでいただくこ
ととした。こうした中で、公民館から講師謝礼を出していただき、
学校から呼びかけをしていただく等、教育委員会にも協力していただ
き実現したものである。

委員： 公民館と図書館は、生涯学習推進課に属し組織は一緒だが、それ
なりに組織間の問題が生じるであろうと思っている。先程、分館の
開館時間延長は、なかなか難しいとのことであったが、図書館協
議会としては、公民館の組織や実情を伺ってから何か提案、要望をだ
していきべきなのかなと思うが、如何か。

生涯学習推進課長： 公民館では、正職員が館長一人で、他は再任用職員とな
る。このため、正職員一人の中でいろいろな講座を考えていくのが
ちょっと難しいところがあったが、いいお声掛けをいただいたとい
うのが本音である。今後、皆さんからいろいろなお知恵をいただ
ければ、そういう講座もやっていけるのではないかと考えている。

委員長： 具体的なアイデアがあれば、こういう場を出し合っていければと思
う。

委員： 6月に開催された講座は、子ども達が学校から帰宅する前の午前
中に設定されていたので、お母さん方が多く参加することができて

良かったと思う。また、中身の濃い講座でレベルアップしていた。資料もとても良く、講師の話がとても充実していた。

委員長： それでは、アンケート全体に戻り、その他のご意見、ご質問があればお願いします。

委員： 学校のボランティアは、素晴らしい計画であるが、市民には、子供さんのいない方や退職された方など、幅広い年代の方がいらっしゃると思う。そういう方達を図書館のボランティアにということについての周知の仕方や計画についてはどうか。

事務局： おはなし会プロジェクトですが、現在、図書館でおはなし会を行っているのは本館のみである。各分館でもおはなし会をとのご希望があるが、人間的な面もあってなかなか難しい状況である。それをどうにかして分館でおはなし会を出来ないだろうか、先ず、職員のおはなし会を出来る人材を増やす。さらに、分館周辺の地域の方々に参加していただいて、おはなし会をやっていただけるボランティアを増やしていくことが出来るだろうかということで、職員2名体制の東部分館で今年度から取り組んでいく予定である。

委員長： 図書館のボランティアは、読み聞かせが中心となっているが、配架とか業務管理とかは、難しいのかもしれない。

事務局： ボランティアというのは、いろいろな形があると思うが、現在、図書館では、月1回土曜日に読み聞かせのボランティアをお願いしているグループと、年4～5回、図書館で人形劇や読み聞かせの活動をしていただいているグループがある。過去には、書棚の整理や図書館の行事等のお手伝いをしていただけるボランティアのグループの方がいたが、図書館の運営が直営から委託されたときに、それぞれの方々のご判断で消滅してしまった。

委員： 点字と音訳とかは？

事務局： 図書館が直接関わっている形ではないが、点字のボランティアさんより定期的に点訳された図書をご寄贈していただくといった形で、福祉のボランティアさんの協力をいただいている。

6、報告

○平成26年度先進地視察の日程等について

委員長： 報告案件の先進地視察の日程等について事務局より説明願います。

事務局： 先進的な図書館を視察することにより、本市の図書館運営につきましてご意見をいただけるよう年1回視察を予定している。今年度の視察候補先として、武蔵野市立「ひと・まち・情報創造館 武蔵

野プレイス」をご提案させていただいた。・・・以下、配付資料に基づき説明・・・

委員長： この件について、ご質問はありますか。

委員： 協議会における問題意識にかなったところを探していただけだと思う。

事務局： 特段の反対意見がございませんでしたので、この案に沿って進めさせていただき、視察先の施設と話が進みましたら改めて通知を差し上げたい。

委員長： それでは、その他ということでは何かございますか。

委員： 委員として、これまで鎌ヶ谷市立図書館の書庫の中を見たことがなかったので、その機会をつくってほしい。

事務局： 本図書館の書庫は手狭な状況であるが、本日の会議終了後にご案内をさせていただきたい。

委員： 大型絵本の貸出期間を2週間に延ばしていただき、ゆとりを持って借りることが出来るようになった。ただ、団体貸し出し用のリストを見せていただいたが、出版社はでているが作者はでていないなど知らない本がいっぱいあったので、直接大型絵本を閲覧できる場所がほしい。

事務局： 本市の大型絵本は、冊数も少ないことから団体の方々に利用していただくという形を取っており、一般の閲覧場所に出すことは控えさせていただいている。ついては、何か良い方法がないか工夫していきたい。

委員： 大型絵本の利用頻度を高めるため、その周知方法等についても検討していただきたい。

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため、次に署名する。

平成26年 8月21日

署名人 高野 彰久 印

署名人 山口 勝巳 印